

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：金谷泉町自治会

開催場所：泉町公会堂

開催日時：平成 28 年 11 月 25 日（金）19 時 00 分～20 時 30 分

参加者：自治会側【地域住民の方 26 人】

市側【染谷市長、眞部危機管理部長、三浦秘書課長、田中戦略推進課長、秋山協働推進課長、浅田金谷南北地域総合課長、清水金谷南地域総合課係長】

内 容

① 鈴木自治会長あいさつ

・市長との意見交換はめったにない機会であるので、市長の思いを聞ける絶好のチャンスでもあり、皆さんの要望や意見を聞いていただくチャンスでもある。両者でいい地域づくりを進めていけるように、前向きな意見交換になることを期待する。

② 市長からの市政報告

■はじめに

・今までは『市長と語ろう』ということでやってきたが、呼んでいただくところと呼んでいただけないところがあったため、この車座トークは、市内全ての 68 自治会をまわるということで実施している。

・また、今年と来年の 2 年をかけて次の総合計画（H30～37）の策定作業を行っているが、この他にも、国土利用計画島田市計画や中心市街地活性化基本計画、公共施設再配置計画などの策定もしていく必要があることから、各地域の課題、さらにはどのような取り組みをしているのかを耳で聴き、肌で感じて、それを市政に反映したいということでまわっている。また、自分の市政への考え方や方向性を皆さんにお伝えもしている。

・政治は 5 年先を予測するのも難しい。アメリカ大統領選挙の結果、イギリスの EU 離脱など世界中、見通しがきかない状態である。博多駅前の陥没事故もありえない事故である。次から次へといろいろなことが起きていく時代になった。

・4 年前と状況が変わってきていることを例に挙げると、リニア中央新幹線の工事によって 7 市の住民（90 万人）の飲み水である毎秒 2 トンの水がなくなってしまうかもしれないという話が出て、この水をどう担保してくれるのかという課題が残されている。

・浜岡原子力発電所の再稼動の問題、安全協定の問題など、原発に関わることは争点になっていなかった。

・地方創生という言葉も一昨年 5 月に地方創生会議の中で消滅可能性都市という増田レポートが出て、日本全国で地方創生への取り組みをはじめた。全国約 1,700 の自治体のうち 896 自治体が 40 年後にはなくなっているかもしれないという内容のもの。このレポートの趣旨は、50 歳以上の人がどんなに多

くいても（若い女性がいらない）都市はいずれ消滅するというものである。

- ・では若い女性に住んでもらうことや、そこで子育てをしてもらって人口減に歯止めをかける地域をどうやってつくっていくのか。右肩上がりではなくなった時代にあって、どういうまちをつくっていったらいいのかという課題は、「人口減少対策が待ったなし」という新たな課題として我々に突きつけられている。
- ・団塊の世代が全て後期高齢者になる 2025 年から 2030 年までの間に高齢化率が 4 割を超え、2030 年から人口自体が減少していく。
- ・生まれてくる子どもの数を見ると 1975 年から減り続けてきた。40 年間減り続けてきたことを概ね同じ年数をかけていかないと子どもの数は増えていかない。
- ・こういう時代にあって、高齢者が安心して住み続けられるまちにしなければならない。そのために、医療や介護の環境を整え、若い人に選んでもらうためには、子育て施策や教育環境を整備する必要がある。
- ・安心、安全、健康、地域の絆など、目に見えないものを見直す必要がある。お金があっても健康はスーパーでは手に入らないし、友達から借りるわけにもいかない。

■金谷泉町自治会の人口、世帯について

- ・金谷泉町自治会の 10 月 31 日現在の世帯数は 482 世帯、人口は 1,393 人で、高齢者人口（65 歳以上）は 370 人、高齢化率は 26.6%となっている。市の平均が 29.5%。平均よりも 3 ポイント程度低い。15 歳以下の人口は 216 人で人口に占める割合は 15.5%となっている。市の平均は 13.7%なので、若い世代の方が選んでいただける地域なのだと思う。バランスのいい地域であると思っている。市内の中心部では、高齢化率が 4 割を超え、交通弱者の問題、買い物難民の問題が出てきている。
- ・世の中のパイが小さくなり高齢化が進むと、介護や福祉にお金がかかる。一方、働く人が減ることによって税収が減る。
- ・かつては、土地の値段が上がり、給料も上がり、全てが右肩上がりだった。こういう時代は、人生設計（老後についても）が容易にできた時代であった。
- ・明日は今日より良くなるといった高度成長期と違って、いつリストラになるかもしれない、給料も上がるかわからない、土地が値上がりする目途がないことに加え、優良企業であっても業績が不振となったり、非正規雇用の若者が増え、さらに結婚したくてもできない、子どもを産みたくても産めないといった人たちが増える日本の社会は、我々が若い頃の夢を描いていた時代と違う時代になってきている。
- ・行政も人口も緩やかに減り続ける中、高齢者が増えるということに対応するため、子育て施策をはじめ、医療、介護、教育などの施策により、市民の皆様が安心して住み続けられるようにすることが行政の基本ベースにあると考えている。今までと同じ行政運営はできないため、組織改革や職員の育成などの取り組みにより、職員の数減らしつつ、職員一人ひとりの生産性をあげていかないと今までと同じ仕事はできない。
- ・道路整備については、国からの補助金は 3 分の 1、県に至っては 7 割カットという中、継続事業が優先され、新しい事業に着手できない。
- ・昭和の時代のように税金を払っていたから行政にお願いすればいいという時代ではなくなっている。今までのように行政に任せておけばいいという時代

ではなくなっている。

- ・ご町内が地域で助け合う活動ができれば、選ばれるまちになっていくと考えている。
- ・地域の課題を解決するために、地域と行政が一緒になって取り組んで解決していく仕組みをつくっていく必要がある。
- ・今までと同じ方法は通用しない。今まで踏み込んだことのない、世界でも例を見ない超高齢化社会を迎えている我が国において、島田市も同様の状況にあって、この問題に皆さんと一緒に解決していくことを意識しながらやってきた。
- ・何が必要かという、短期的なビジョンだけではなく、長期的なビジョンを持つことが必要となっている。10年先を見据えた時に、今、何をすべきかということを考えて市政運営をしている。
- ・子どもや孫に選んでもらえる金谷、島田にしていかなければいけない。
- ・投資だからという理由で、補助金がもらえるなら、合併特例債が適用される期間に施設等を造ったほうが良いという考え方で進めてきたが、施設等の維持管理には、造った時よりも3～4倍の経費がかかる。高度成長期からのツケが今の国や地方自治体の借金につながっているのではないか。

■新病院の建設について

- ・今年基本設計をつくっている。平成32年度中の開院を目指している。
- ・造る場所は、今の病院の東側の駐車場の場所で、道を付け替えたりする。病床数は445床で診療科目は今とほぼ同じ。
- ・床面積は約35,000㎡、7～8階建て、屋上にはヘリポートを設置して、ドクターヘリの患者に対する医療行為を効率的に行えるようにしていきたい。
- ・建設費等については、医療機器に約50億円、医療機器を含む総事業費約247億円を見込んでいる。
- ・地盤については液状化の可能性はない。過去35ヶ所のボーリング調査を実施し、今年度は8箇所調査している。粘土質であるが岩盤までの距離はある（深いところで30m以上）。土壌改良と岩盤まで杭を打つことで建設には支障がないとの設計業者の話を受けている。
- ・医師の確保にも努めていきたい。今までは市民病院は京大系の医師の派遣を受けてきたが、研修医が自分の研修先を選択する時代になった。昔は医局制度があって、教授が指示していた時代には、京大からも医師が島田に来ていたが、今は、研修医が自分の研修する場所を選択するため、島田に来なくなった。京都の学生さんたちは、関西圏から出たくない。
- ・今後、安定的に医師を確保するために、常時派遣してもらえる浜松医大との連携を密にしており、今後も継続して派遣していただけるように取り組んでいきたい。
- ・私も定期的に浜松医科大学の学長を訪問して、島田に医師を派遣していただきたいとお願いをしている。10月にも麻酔科の医師がきてくれている。来年4月には准教授クラスの医師が来る予定。

■賑わい交流拠点の整備について

- ・合併して10年、何も金谷にいいことはないといわれてきたが、市内でも金谷地域はこれから一番変わる地域であると考えている。集中的に投資を計画している。
- ・NEXCO 中日本、大井川鐵道、JA 大井川、島田市の4者が連携し、新東名高速道路島田金谷 IC 周辺に、地域の特産品を集めた販売所や、カフェやレストランなどが入る施設を建設する予定。売り場面積が今のところ日本一となるマルシェとなる見込み。大鐵は新駅建設も検討している。
また、市は、新東名の下に、国の占用許可をとって、約1,000台弱の駐車場を造る予定となっている。(今後、新東名のバス路線を見据えた計画でもある。)
- ・国一バイパスの4車線化に伴い、大代インターチェンジの改良も必要になると JA 大井川五和支店の移転も必要になるのではないかとと思われるので、JAの支店を交流拠点の中に組み込むことも考えている。
- ・奥大井につながる観光の拠点であり、大井川流域の農産品をここに集めて売る。(JAのコンセプトは、農業で地域が元気になるということ。)
- ・最短で平成30年5～6月に着工できる計画で頑張っている。31年にはオープンさせたい。
- ・首都圏からの観光バスの往復500kmの位置として、交流拠点の位置あたりになるので、バスを降りてつながる観光の拠点とすることに加えて、空港周辺のこの地域にも交流人口の増加につながる動線を考えていきたい。
- ・交通網の拠点となる場所がインターチェンジ周辺だと考えている。(交通結節点)
- ・NEXCO 中日本はETC2.0型(E T Cで降りた場合の料金のカウントを変えない方法)を検討している。
- ・このような拠点となる施設を造ることによって新たな機能を付加することができる。ここには「にぎわい」という機能を付加していきたい。

■新東名島田金谷インターチェンジ周辺の開発について

- ・84haを内陸フロンティア地域として開発することを考えている。農振除外ができるかということと、大井川土地改良区の受益地になっていることへの対応という課題に最大限の力を注いでいる。
- ・地元の皆さんとゾーニングも検討した(工場や居住など)。
- ・何とか今年度中に目途をつけて、にぎわい交流拠点とともに、企業誘致を進めていきたい。(アンケート調査などの結果では20社ほどの引き合いもある。)
- ・牛尾山と一豊堤のあたりから先行的に開発を進められればと考えている。
- ・平地で大井川の豊かな伏流水が出るところは新東名沿線では他にない。雇用を生み出すことも含めてこの地域の可能性は高く、売り込んでいるところ。

■金中跡地の開発について

- ・かつては、コンベンションホール、ツインメッセなどの構想から8年の歳月が流れた。交流人口を増やす目的で国費(補助金)をもらって整備をしてき

ている場所であるため、その趣旨にあうものにしていく必要がある。

- ・昨年アイデアコンペを実施し、今年是有識者会議を開催して民間業者を選んでもらうことを考えている。
- ・今、マーケットサウンディング（ゼネコン、土地の開発業者、金融機関などに声を掛けて現地をみてもらい、どのような開発に適しているかを、その周辺のティーガーデンシティ構想（風の郷）として指定されている地域ということも勘案して提案すること。）を行った。
- ・我々はロケーションやお茶の郷との連携も考えると素晴らしい場所だと考えているが、マーケットサウンディングでは、商業施設などは難しいという意見をいただいている。こうした中、8年前の計画（約束＝底地は市が用意してウワ物は県が建てる）が果たせないため今に至っている。県はその約束が果たすことができないことから、民間活力をもって交流人口を呼び込むような施設を造っていきたいと考えている。そこに行政的機能を付加したいと考えている。何もしないでそのままにしておくわけにはいけない。
- ・このように、今まで解決できなかったこと、取り組みができなかったことを一つ一つ前へ進めるようになってきている。市民の皆様の中には、進捗が遅いと言われる方もいるが、こうした多くの課題等を丁寧に取り組んで前に進めていることに御理解をいただきたい。

■金谷庁舎について・公共施設のあり方について

- ・金谷庁舎は、合併する時には耐震補強して使うということを聞いているが、前の市長のときにそれはしないということで、支所を2箇所整備した。
- ・金谷庁舎のエアコンが昨年壊れ、修理費に6,000万円もかかるということだったが、耐震性のない建物に、それだけの投資はできないということで修理はしていない。
- ・金谷庁舎については、現在、おおりに入っている社会福祉協議会が市民会館跡地の向かい側に移転した。（11月7日）。社会福祉協議会が出たスペースに教育委員会を移転する計画である。（年明け）耐震性のない庁舎での業務には課題もあること、しかもあの施設を耐震化することは莫大な費用がかかる。さらに配管等の設備の老朽化が進んでいる。
- ・こうした中で、一度おおりに教育委員会を移していく。金谷庁舎の機能（整備）については内部で検討しているが、一つ方針が決まっていることは、南支所、北支所を今の金谷庁舎の跡地に一本化させていただきたいということ。旧金谷町と旧五和村が合併した融合の地に金谷庁舎があるという点に加え、行政効率も考慮するとあの地に支所を設けていきたい。金谷庁舎の跡地には民間活力を導入して複合施設等を検討したい。議会には、健康・福祉の機能という説明をしているが、市民の皆様の声も聞きながら検討を重ねていきたい。
- ・今の支所の施設は、地域貢献に値するような施設としての活用を考えていきたい。（この地域では、北支所になるが、五和小学校の放課後児童クラブで活用されていることに加え、皆さんの会合や習い事などで活用をいただいている。）
- ・公共施設は276施設663棟の建物がある。この施設に係る修繕費の費用はこれからの40年間で2,515億円かかる。年間63億円にもなる。今は維持管理・更新に年間36億円かけているので、その1.75倍となる。このことから、施設のあり方や経費の平準化も検討をしていかななくてはならない。
- ・投資できる金額との整合性を図るためには、今後40年間に公共施設の約21%を削減しなければならないというデータが出ている。公共施設は276施設

663 棟の建物がある。削減することは市民の皆様も（総論では）ご理解いただけると思うが、実際自分の地域から公共施設がなくなることは、その地域の方には困るという話になってくる。

・市内に 25 ある小中学校のほとんどが昭和 40 年～50 年代に建設されたため、老朽化も同じ時期となる。教育環境の充実といった点でもある程度の規模が必要であると感じている。

■金谷地域の道路整備について

- ・国道 1 号島田金谷バイパスの 4 車線化、菊川インターのフルインター化などは早期に完成できるよう、継続して予算の確保も含めて国に要望をしている。
- ・御前崎港（重要港湾）⇒菊川 IC⇒大代 IC⇒新東名という大災害時における「命の道」がつながるということで国への要望を積極的に行っている。
- ・4 車線化に伴い、大代 IC のトランペットも大きくすることによって JA 五和支店の移転も必要となったことにより賑わい交流拠点の構想にもつながってきている。
- ・国道 473 号の 4 車線化について、最初を実施したい箇所として、主要地方道焼津森線と市道島竹下線の交差点の改良を実施していきたい。同時に島竹下線の拡幅工事に着手したい。

■お茶の郷について

- ・お茶の郷は今年の 6 月 1 日に県に移管した。島田市が所有するよりも県営のお茶の博物館になるほうが、発信力、財源の確保の点に加え、県知事は、花の都は浜松、お茶の都は是非、島田市へという要望をして実現した結果である。
- ・県の話では、再来年の春（仮称）ふじのくに茶の都ミュージアムとしてリニューアルオープンとなる予定。県が所有し、全国的にも例を見ないお茶の専門の博物館ということであるので市も連携を図っていきたい。（県は入口の位置を変え、エレベーターを設置し、地元産材を使っていきたいとの考えがあるようだ。）
- ・県が持つことによって情報発信などにおいて効果的であることがあげられる。お茶の薬能などお茶の機能性という分野を追加することも考えられる。
- ・金中跡地から牧之原公園に向う変則の交差点は真っ直ぐになるよう改良し、同時に歩道を整備した。
- ・売店などは、地元の方の雇用で充てていくということを聞いている。

■牧之原公園の整備について

- ・工事期間は 11 月 1 日から 2 月 28 日までとなっている。（公園内に工事の看板が掲示されている。）
- ・懸案のトイレについては、解体して展望台の部分を今のトイレの方まで延ばしてトイレは道路側に新設する。フェンス、椅子の取替えも行う。
- ・このように公園全体を一体整備することは滅多にない。これは、牧之原公園が夜景 100 選ということに加え、お茶の郷（6 月から県へ移管）、旧金中跡地

と一体となった整備に相応しい公園としていくための投資である。

- ・富士見茶屋は行政で手を入れるので、地元の方に運営をしていただきたいと考えている。(地域のことをPRしたり観光案内などで活用いただきたい。)
- ・ここにしかない魅力、ここにしかない個性を求めて観光客は来るので、地元の皆さんで運営していただき、温かなおもてなしをすることによって、地元にもお金が落ちる仕組みができたらいいと考えている。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	<p>■金谷小学校のトイレについて</p> <p>トイレが洋式化に向けて進めていただいているが、まだ和式のものがある。体育館は全て和式である。自宅は洋式ということ、低学年は洋式の方でないとしにくいといった点から、洋式化に向けてどのように考えているか。</p>	<p>●静岡県全体で耐震化を優先したために、他県よりも遅れているのが現状。金谷小学校の計画について、教育委員会に確認して自治会長にお伝えする。【検討事項1】</p> <p>学校のトイレは全部洋式であった方がいいというのが私の持論だが、教育委員会はそうではない。(よそのお子さんが座ったところに座るのを嫌がるお子さんもいるというのが学校側の考え。)</p>
2	<p>■金谷小学校の体育館の雨漏りについて</p> <p>体育館が雨漏りをしており、学校側から市に要望をしてあるが3年経っても雨漏りが改善されていない。状況は悪くなっているので、現状をお伝えして、現状を見ていただいて対応をご検討いただきたい。</p>	<p>●雨漏りは十分に承知をしている。どこから雨漏りしているか原因がつかめない。金谷小学校の校舎はデザイン性のある造り方をしている。こういう建物は雨漏りしやすい。校舎は防水シートを全部張り替えるが、体育館は面積が大きいこともあって、後者のようにはいかない。この件については教育委員会に確認をする。【検討事項2】</p> <p>子どもたちは島田の宝。島田が「ふるさと」だと思える子どもを多く育てたい。</p>
3-1	<p>■地域の防災訓練時の公園の使用について</p> <p>地域の防災訓練の時に公園を利用している。その際に申請書類を出さなければならない。(公園使用許可、減免の各申請)</p> <p>申請書の提出、許可書の交付のたびに市役所(市街地整備課)に行かななければならない。町民のための防災訓練であるので、こういった手間を省いてほしい。</p>	<p>●市街地整備課、危機管理課が連携して、使い勝手が良い方法に改めていきたい。【検討事項3】</p>

3-2	<p>■電話またはFAXなど、出向かなくてもいいような方策をお願いしたい。</p>	<p>●わかりました。</p>
4-1	<p>■大代川の浚渫について 大代川に土砂が堆積し雑草が生えているので撤去してほしい。大雨の時には大変なことになると思う。</p>	<p>●大代川は県の管理の河川である。土砂の堆積を取るように要請している。県の島田土木事務所は焼津、藤枝も管轄なので予算が少ない。危険性の高いところから実施していると聞いている。ただ、要望を継続することが大事なので、地元からも要望を上げてほしい。もちろんどのあたり（場所）かを教えていただければ市からも願います。 余談だが、国もその道ができたらどれだけの効果があるかということデータを示すように指示をしてくる時代になった。ただ単に造って下さいと要望してもその要望は通らない。その道路を造ることによって、雇用の創出や渋滞の解消、企業の進出数など数値で効果を表さないとならない。（ストック効果を示していく必要がある。）結果も求められている。</p>
4-2	<p>■曙橋に登ると河川の中に小山のようになっている。ゲリラ豪雨で河川の氾濫が毎年報道されている中で、あそこの箇所が大丈夫かと心配している。どの程度かということを見てほしい。</p>	<p>●一度、市の都市基盤部に現場を見させて、県の土木事務所にお話をする。 【検討事項4】</p>
5	<p>■「みんくる」の空調について 「みんくる」で会合をやった時に暑かった。理由を聞いたら10月になったら冷房をつけないと言われた。気温によって冷房、暖房とかの切り替えができないのか。</p>	<p>●全館で集中管理になっていると思う。冷房する期間（6～9月）となっているのではないか。また確認してみる。【検討事項5】</p>
6-1	<p>■浜岡原子力発電所について 浜岡原発に対する市の考え方。防潮堤の工事が行われ、今後再稼働の申請がされると思うが、これに対して島田市はどのような考え方で臨むのか。UPZ県内の市町との兼ね合いもあると思うが。</p>	<p>●浜岡原発の再稼働は認められないという意思を貫いている。島田市は県内でも一番早く、原発の単独事故、地震や津波などによる複合災害の両面の広域避難計画を策定した。しかし、今、島田市民10万人を安全に避難させることができるかと言ったら難しいと考えている。使用済みの燃料があることに加え、再稼働することは許せないと思っている。県知事も地元の要望を聞いて判断すると言っているので、知事の判断だけでOKを出すことはないと信じている。地元4市（御前崎市、牧之原市、掛川市、菊川市）が安全協定を中電と県と3者で締結しているが、3.11（東日本大震災）が</p>

		<p>起こることを想定していない協定である。ネジ一本替えるのにも事前了解がいる。それならなおさら、再稼動にも事前了解が必要であろうと考えている。中電と県とUPZ圏内の5市2町（島田市、焼津市、藤枝市、袋井市、磐田市、吉田町、森町）で7月8日に安全協定を結んだ。この協定締結には2年5ヶ月かかった。その理由として、地元4市に準じる安全協定を結びたいということで、事前了解の規定に関する調整（それぞれの首長の思い）が難しかった。今回、ようやく安全協定を締結できた。地元の4市について、県は必要と認める場合には浜岡原発に立ち入り調査を行うことができることとなっている。5市2町はその立入調査に同行できるということになった。立入調査の結果、必要であると認める時には、適切な措置を電力会社に求めることができる。地元4市の措置の要求があったときには、中部電力が5市2町に正しい情報を流すということになっている。この安全協定の中には解釈書という措置要領に基づき、事前通知がされて、事前協議を通じて実質的に事前了解が担保されることとなっている。</p>
6-2	<p>■今でも使用済み核燃料がある中で、稼働していなくても危険である。こうした中、市としては廃炉の方向で考えられているのか。</p>	<p>●中電は再稼動したいのであれだけの工事を行っている。そして見学会も積極的に行っている。中電は廃炉とは全く言っていないが、最終的には国審査会の判断になると思う。使用済み核燃料については、ほかの安全な場所に移すことで安全管理をお願いしているところである。</p>
7	<p>■最終処分場について ごみの最終処分場が使えなくなるがその後の対応について教えていただきたい。</p>	<p>●山田町の震災がれきを受け入れたことが発端である。受け入れの際には全国から注目を浴びたが、地元の了解なしに受け入れたことが問題であった。地元ではお茶の風評被害があつて苦しんだ。地権者の皆さんは行政に対して深い不信感を抱いている。地権者の一部が土地を返せということで裁判に訴えた。裁判の結果は、市側の全面敗訴だった。控訴しても結果は一緒だという弁護士の判断もあり、控訴するよりも、もう一度使わせていただきたいという考え方で、昨年の7月から誠心誠意取り組んできた。地権者の皆さんが放射線濃度を気にされているので、ごみを掘り返して、そのごみの放射線量を測定した。結果は、それも島田のごみと同等またはそ</p>

		<p>れ以下の数値だった。それでも危ないというお話から、ゼオライトシートという放射線を遮るシートでごみを軍艦巻きにして安心感を取り戻すよう努めた。しかし地権者の数名の方は何をしても市は信じられないということで土地を返してくれということだった。最終処分場の県の許認可は平成29年3月31日までとなっている。あと5～6年は使えるが、そのためには県の許認可を受ける必要がある。それには地権者全員の同意が必要となる。誠心誠意対応したが、ひとつのボタンの掛け違いが大きな結果を生むということであった。行政は御納得をいただくということも必要であることを痛感した。</p> <p>昨年、コンサルに新たな処分場の可能性のある土地の調査を行った。6箇所について、20年程度使用できる規模でないこと、人家があること、河川の問題、道路のアクセスの問題などによって適地ではないということが調査結果であった。</p> <p>このため、新たな最終処分場が決まるまで外出しをするということにした。市内外の民間の一般廃棄物、産業廃棄物を扱う業者に灰の処分をお願いするという。近隣で自前の処分場を持っているのは島田市だけで、焼津、藤枝も外出ししている。愛知県の業者に1トン当たり2万数千円の処分費で契約している。4月以降外出しするというのであれば、その契約の準備をしていかなければならない。自前で最終処分場を持つよりも外出しした方が経費は安い。灰を受け入れる所もその地域の産業として成り立っているという首長もいる。</p> <p>今の最終処分場は、裁判どおりに覆土して地権者にお返しすることになる。</p>
8-1	<p>■側溝について（泉町5区）</p> <p>側溝の水のはけが悪く、水が溜まるため蚊や悪臭がする。しかも溝蓋（横40cm、縦50cm、厚さ50cm）で外すのが大変である。そのため、泥を出すことができない。</p>	<p>●溝蓋を外す機械が市にはある。</p>

8-2	<p>■斜めになっているので難しいと思う。平らになっていけばいいが。現状をみてもらいたい。</p>	<p>●泉町の5区ですね。【検討事項6】</p>
9	<p>■川ざらいについて 金谷町時代は、川ざらいの時に薬剤をくれた。この辺は農地もなく住宅地なので薬剤を撒いてもいいと思う。</p>	<p>●石灰はお渡ししていると思うが、薬剤については、除草材、殺虫剤に懸念する方がいる中で、そういったものを撒いていいものかについては担当に確認する。結果を自治会長さんにお伝えする。【検討事項7】</p>
10	<p>■水路橋について 橋のたもとにランプがあるが、このランプの赤がすぐ変わると思って待っていたバイク、乗用車の人たちがいた。2時間待たなければいけない。案内板を川根街道（主要地方道島田川根線）とかに出したらどうか。 前に質問した時には、前の市長の回答は、国土交通省が公には通さないところなのでというものだった。</p>	<p>●水路橋は地元の方が使うものとして特別に通行を認めてもらっている。そのため橋のたもと以外のところに看板を出していない。新たな橋を国に要望しても難しい中で、水路橋を大きくしていればというご意見もあるが、別の目的で造られている橋であるので現状が精一杯の状況である。</p>
11-1	<p>■大代川の堤防について 2、3年前に大代川の天王町付近の堤防が崩れた。（大雨の後だと思う。）亀裂が入っていたから崩れたと思う。すでに修繕は終わっている。この付近にもコンクリが割れているところがある。早く見てもらった方がいいと思う。点検をしてほしい。</p>	<p>●コンクリが割れているところは本当にたくさんある。県は崩れたところは修繕をしたが、その反対側を全て見て直すということが難しい現実の中で、県は定期的にパトロールをしている。県もプロであるので危険な個所はチェックして優先的に直している。</p>
11-2	<p>■傷は小さい時にやったほうがいい。</p>	<p>●アドバイスをいただいた。</p>
12-1	<p>■コミュニティバスについて 運賃が100円から200円に上がったが、それによってプラスになったのか。逆に利用者が減って赤字が増えているのではないか。</p>	<p>●コミバスは年間に約2億4千万円の経費をかけている。運賃の収入はこの経費から見ればわずかで、国、県、市の負担でまかなっている。安ければ良いのではなく、国も適正な価格を求めてくる。他自治体も概ね200円の運賃となっているところが多い。ただ、高齢者で毎日乗る方については、何らかのインセンティブを付ける方法を担当課に検討させている。皆さんは運賃が上がったことにより、利用が減ったか。</p>
12-2	<p>■減った。例えば「みんくる」へは以前は路線が2本だった。今は、金谷循環線で行かなくなってしまったので歩いて行っている。</p>	<p>●金谷地域の路線を変更したことに伴うご意見はいただいている。このため、来年の春に小規模の変更、再来年には大規模に変えていくことを考えている。改善は必ずしていく。路線の変更は市が勝手にできない。関東陸運局への申請、許可に基づき路線を変更するが、その期間が半年程度要す</p>

12-3	<p>■個人的には「夢づくり」、「みんくる」に行くのに不便になった。泉町から直接行くバスがなくなった。</p>	<p>る。</p> <p>●健康であるためには、行くところがあってということも大切なので、使い勝手のいいバスとして改善をしていく。年間に約2億4千万円の経費をかけても時間が悪い、路線が悪い、乗客がないなどのご意見をいただく。みんなで乗るところから路線をつくっていくことにもなる。コミバスのお願いに市役所に来る方々でさえも自家用車に乗ってくる。市ではコミバスは公共交通機関として考えている。しかし、4億円、5億円の経費を使っても福祉の観点でと市民の皆さんのお声があればそのようにすることはできる。ただ、その金額を何かの事業を削らなければいけない。</p> <p>給食費をタダにした方がいいと議会の質問でいただくことがあるが、給食費は材料費しかいただいていない。人件費、施設費、光熱水費は市の負担である。材料費だけでも年間約4億円をいただいている。この4億円のために何か事業を削らなければならない。それなら、学校支援員やALTの外国語教員を付けることができる。教育費をタダにするよりも、教育の充実にお金を使うことも必要である。こうしたお話を皆さんと行政とで重ねていくことが地域を変えることにもなるのだと思っている。</p>
------	---	---

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子



⑤検討事項に対する対応（報告）

質疑応答番号 検討事項番号	検討内容（市長の発言）	市からの回答（対応状況）
1 【検討事項1】	<p>●静岡県全体で耐震化を優先したために、他県よりも遅れているのが現状。金谷小学校の計画について、教育委員会に確認して自治会長にお伝えする。【検討事項1】</p>	<p>●市内小中学校のトイレの洋式化については、校舎等の耐震化を優先してきているため遅れていますが、児童・生徒が過ごす時間が最も長い校舎を優先して、当面50%以上の洋式化を目標に取り組んでいるところです。金谷小については、平成18、20及び22年度に工事を実施し、約40%が洋式トイレとなっている状況です。市内全ての小中学校について、順次トイレの洋式化を進めている状況ですので、金谷小学校についても、引き続きトイレの洋式化工事を計画し、実施していきます。</p>
2 【検討事項2】	<p>●雨漏りは十分に承知をしている。どこから雨漏りしているか原因がつかめない。金谷小学校の校舎はデザイン性のある造り方をしている。こういう建物は雨漏りしやすい。校舎は防水シートを全部張り替えるが、体育館は面積が大きいこともあって、後者のようにはいかない。この件については教育委員会に確認をする。 【検討事項2】</p>	<p>●金谷小学校体育館の雨漏りについては、平成20年度から何度か報告を受け、随時、調査や修繕工事を繰り返し実施してきていますが、完全には改善していないことは認識しています。体育館の構造が複雑で、全ての雨漏り箇所の特定が困難であることから、現在、雨漏りの原因究明及び改修設計について、業者委託することを検討しています。</p>
3-1 【検討事項3】	<p>●市街地整備課、危機管理課が連携して、使い勝手がいい方法に改めていきたい。【検討事項3】</p>	<p>●公園を利用していただく際には、条例に定められた手続きが必要です。現在その手続きは利用者から申請書類を提出後、市からの許可により申請された公園を占用し利用できることとなります。その際には市役所へ出向いていただくこととなり市民にとっては負担となっているケースもあると思います。このため、市民の皆様の負担を軽減させる方法について検討した結果、今後は各地域の支所を経由する方法が現行の手続きの中で簡素化できる範囲であります。また併せて庁内での情報共有により手続きを不要とすることが可能か検討してまいります。</p>

<p>4-2 【検討事項4】</p>	<p>●一度、市の都市基盤部に現場を見させて、県の土木事務所にお話をします。【検討事項4】</p>	<p>●県の土木事務所に確認しました。 （一）大代川（金谷栄町）の河道内の樹木については、川の流れを阻害するので、現地を確認し、必要に応じて伐採等の対応をする。また、堤防に生える樹木については、台風等の強風時に堤防を揺らし、場合によっては破堤する恐れもあることから、現地を確認し、必要に応じて伐採等の対応をする。河道内に繁茂するヨシ・アシ等については、降雨による増水時には転倒し、流れを大きく阻害するものではないので、経過観察とする。</p>
<p>5 【検討事項5】</p>	<p>●全館で集中管理になっていると思う。冷房する期間（6～9月）となっているのではないか。また確認してみる。【検討事項5】</p>	<p>●環境に配慮し、原則として冷房期間（6～9月）を設定し全館を集中管理していますが、設定期間外においても、利用者からの申し出があった場合は、気温や室内の状況に応じて、適宜対応しております。 今後は、利用者が室温を把握できるよう温度計を設置し、適正温度を保つようにします。</p>
<p>8-2 【検討事項6】</p>	<p>●泉町の5区ですね。（溝蓋が斜めになっている件） 【検討事項6】</p>	<p>●現場周辺を確認しました。 高齢化の進行により、地域の皆様が行っていた様々な作業が難しくなってきたとお声を伺うことが多くなってきていますが、出来る範囲の中での作業お願いをされているところです。</p>
<p>9 【検討事項7】</p>	<p>●石灰はお渡ししていると思うが、薬剤については、除草材、殺虫剤に懸念する方がいる中で、そういったものを撒いていいものかについては担当に確認する。結果を自治会長さんにお伝えする。 【検討事項7】</p>	<p>●川ざらい時には、過去には、殺虫剤も配布した経過もありますが、自治会ごとの事情で、散布されない町内もあり、現在は石灰のみ配布をさせていただき、消毒を地元の皆様をお願いしております。 また、必要な箇所への消毒等につきましては、市で消毒機材（二兼機5台、動力噴霧機2台）を用意してありますので、地元で薬剤を御準備いただければ、貸し出すようにしています。その際には、環境課まで事前にご連絡いただきたいと思います。</p>